

# 第8回ラピッドプロトタイピング国際会議

## The 8<sup>th</sup> International Conference on Rapid Prototyping

豊田工業大学 客員教授 中川威雄  
(平成11年度国際会議等開催準備助成 AF-99029)

**キーワード:** ラピッドプロトタイピング, 積層造形,  
自由形状創成

**開催日時:** 2000年6月12日(月)~14日(水)

**開催場所:** 大田区産業プラザ PIO (東京)

### 国際会議報告:

米国デイトン大学が主催する「ラピッドプロトタイピング国際会議」は、ラピッドプロトタイピング(以下、RPと省略する)技術が登場した初期の頃より研究発表と最新の情報交換の場を提供し、RP技術の発展に寄与してきた。この度、日本において型技術協会はデイトン大学と共催で「第8回ラピッドプロトタイピング国際会議」を開催した。RPに関する国際会議が欧米以外の地区で開催されたことは、今回初めてのことである。

会議には12カ国より228名が参加した(表1)。本会議での基調講演は、申請者が「日本におけるラピッドプロトタイピング」と題して、知られざる日本のRP技術の現状を紹介した。また、RP技術を活用している日本企業を代表して、トヨタ自動車(株)の矢野裕司氏が「自動車業界におけるラピッドプロトタイピングの現状」と題して特別講演を行った。さらに、最新技術の紹介で名高い米国ウォーラーズ・アソシエーツ代表のテリー・ウォーラーズ氏が「ラピッドプロトタイピングの最新技術とその動向」と題して特別講演も行った。一般講演は2日間にわたり9セッションで76件が実施された(表2)。「Industrial and Medical Applications」の発表数が最多であることはRPがものづくりに不可欠な高水準の技術として産業界より多大に期待されていることを裏付けている。講演ごとに発表者と聴講者との間に熱心な討論が交わされ、質の高い充実した国際会議であった。

会議3日目には「日本のRP技術見学会」が海外からの参加者を主な対象として実施された。見学先は、ソニー、インクス、理化学研究所の3ヶ所であった。世界最高水準を誇る日本の生産加工技術に直に触れる、極めて貴重な機会を提供することができた。

本会議は世界の研究者にとって多くの新技術や新装置の開発や応用などの研究開発情報を得る貴重な機会となった。同時に、日本及びアジアにおいてRP技術が

広く普及し、期待が集まるなかで開催されたことは、アジアの研究者達と欧米の研究者達との交流を深める上で大きな意味がある。これからのRP技術の進歩と発展に本会議が寄与したことを確信する。

### 謝辞:

本国際会議の開催にあたりご支援頂きました天田金属加工機械技術振興財団に、深く感謝いたします。

### 文献/参考文献:

The University of Dayton PROCEEDINGS OF THE EIGHTH INTERNATIONAL CONFERENCE ON RAPID PROTOTYPING (2000), 474pp.

**表1: 国別参加者数**

アメリカ	12名
イギリス	6名
イスラエル	1名
韓国	9名
シンガポール	2名
台湾	3名
中国	9名
ドイツ	3名
日本	177名
フィンランド	4名
ベルギー	1名
ポルトガル	1名
合計	228名

**表2: セッション別発表数**

Software	5件
Reverse Engineering	4件
Process Modeling	4件
New Technologies	13件
Industrial and Medical Applications	18件
Machine Trends	3件
Rapid Tooling	16件
Advanced Processes and Materials	10件
High Speed Milling and Finishing	3件
合計	76件